

令和 3年度

事務事業評価表 (令和 2年度 の実績評価)

記入年月日
令和 3 年 4 月 15 日

事務事業名		高齢者生きがいと健康づくり推進事業				事業区分		担当		
						新規/継続	継続	事務事業No.	010601000006	
政策体系上の位置付け						単独/補助	補助	所属課	040501	
政策体系	総合計画の施策名	0106 高齢者福祉の推進								高齢福祉課
	政策名	01	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり						課長名	
	施策名	06	高齢者福祉の推進						グループ	地域包括支援グループ
	手段名	01	①高齢者の生きがいづくりの推進						担当者名	
財務会計上の位置付け						事業期間				
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	単年度繰返し (年度～)			
	06	05	02	01	01	00	一般介護予防事業			
法令根拠	介護保険法					↳ 期間限定の場合、総投入量を（3）投入量の右側に記入				

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
手 段	①事務事業の概要 (事務事業の全体像) おおむね65歳以上の高齢者が豊かな経験、知識、技能を生かすことで生きがいを促進し、閉じこもり及び要介護状態になることを予防するため、趣味講座 (陶芸教室、竹細工教室等)・教養講座 (しあわせ教室)・交流会 (文化祭、芸能発表会)、介護予防教室 (筋力あつぷ教室、元気はつらつ教室)等を岩瀬福祉センター・真壁福祉センターを会場として実施している。事業の実施については、桜川市社会福祉協議会に委託している。
	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 【担当者が行う業務の内容】 事業内容の検討、委託料の検討、委託契約事務、委託費の支払・清算事務、活動実績の集計

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移									
①手段 (担当者の活動内容)		④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
事業内容の検討、委託料の検討、委託契約事務、委託費の支払・清算事務、活動実績の集計		開設講座数	回	27.00	27.00	27.00	27.00	27.00	
		開催講座及び教室延べ数	回	465.00	550.00	550.00	550.00	55.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
②対象 (誰、何を対象にしているのか)		⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
おおむね65歳以上の高齢者		高齢者人口 (65歳以上)	人	13,408.00	13,505.00	13,557.00	13,608.00	137,000.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)		⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)	04年度 (目標)	05年度 (目標)	
閉じこもり防止と健康維持を図る。		参加者数	人	4,100.00	5,200.00	5,300.00	5,300.00	5,300.00	
		生きがいを感じている高齢者の割合	%	67.10	69.00	71.00	72.00	73.00	
				0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	

(3) 投入量（事業費）の推移				01年度 (実績)	02年度 (実績)	03年度 (計画)			期間限定 総投入量
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	2,400	1,888	1,888		0
			県支出金	千円	1,200	944	944		0
			地方債	千円	0	0	0		0
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0
			その他	千円	4,801	3,774	3,774		0
			一般財源	千円	1,200	944	944		0
			事業費計（A）	千円	9,601	7,550	7,550		0
		正規職員従事人数	人	1.00人	1.00人	1.00人			
事業費の内訳	02年度事業費 実績（千円）					03年度事業費 予算（千円）			
	12 委託料	7,550				12 委託料	7,550		

事務事業名	高齢者生きがいと健康づくり推進事業	事務事業No.	10601000006	所属課	高齢福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 家に閉じこもりがちな高齢者を対象に、介護予防を目的として合併前より実施されていた。平成18年からは地域支援事業の一つとして、国・県の補助金対象事業になった。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特になし					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
改革 改善 を行う	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？) 結びついている 高齢者の生きがいを促進し、閉じこもり予防・孤独感の解消を目的としているため、高齢者福祉の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称) 妥当である 高齢者が事業に参加し、豊かな経験知識技能を活かすことにより、生きがいづくりを促進することは、高齢者の生きがいづくりの推進になることから妥当である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？) 向上余地がない 高齢者人口が増加する中、個人の趣味活動も多様化しているが、今後も周知を行うことにより新規参加者を増やしていく。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？) 影響有 高齢者の生きがいを促進することが介護予防及び健康寿命の延伸につながるため、廃止すると要介護認定率が増加すると予想される。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名 余地がない 他に類似事業がないため、統廃合・連携はできない。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？) 削減余地がない 会場代以外はすべて受講者負担としているため、これ以上の事業費削減は難しい。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？) 公正・公平である 対象者は市内に在住する高齢者を対象としており、受講を希望する者が参加しているため、公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
①目的妥当性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ②有効性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ③効率性 ■ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 ■ 適切 □ 見直し余地あり	⇨	国の制度改革に伴い、現行事業の見直しと新たな介護予防事業を構築を目指し、検討・協議を行い、利用者の合意形成も行った。これにより平成29年度より新たな事業内容の着手と事業費の見直しとなったが、令和2年度に再度事業の内容、事業費の見直しを行った。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う ☒ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 改革改善を行う ☐ 現状維持		(複数回答可) ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	×																				
	低下		×	×																				
		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果	②																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☐ A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐